

ふるさと見て歩き

第32回

大根田願入寺跡と清龍権現



▲大根田願入寺・成就院跡

緒川十景のひとつに数えられている大根田願入寺跡。その隣には清龍神社という小さな社が祀られています。どんないわれがあるのでしょうか。

◇大根田願入寺

浄土真宗の開祖親鸞の孫如信（本願寺第二世）が最初奥州白河郡大網（現福島県石川郡古殿町または西白河郡泉崎村）に開基したといわれ、「奥の御坊」「大網御坊」と呼ばれた由緒ある寺でした。白河市には大網御坊の後身である常瑞寺が現存しています。如信はその後、常陸国金沢（大子町）の草庵に移り、奥の御坊は息子の浄如が継ぎました。如信はこの金沢の地で生涯を終えたと伝えられています。更に如信の孫空如のときに奥の御坊は「願入

寺」と名前を変え、伏見院勅願所となりました。第八世如慶のときに奥州の乱の戦火を逃れるため、文安三年（一四四六）に金沢から大根田（緒川地域）の地に移ってきたものです。

親鸞の子孫たちの一部はこの時期奥州に根付いて活動しており、大根田や下野高田（栃木

県二宮町）の門徒たちと連携をとりながら布教を行っていました。願入寺は荒廃しながら常陸国内を転々しますが浄土真宗自体は各地の大規模寺院を拠点として、親鸞の門弟や親族が中心となり大きな勢力を持つようになつていきました。大根田御坊の如慶は、本願寺中興の祖といわれる蓮如の東国下向を助け、資金面でも協力したようです。そのとき蓮如が大根田御坊宛に出した礼状が現在も大洗の願入寺に遺されています（県指定文化財）。大根田に移転した後も願入寺の移転は続きます。わずかに二代後には石神（東海村）に、その後菅谷（那珂市）に、その二代後には佐竹氏の招きにより久米に移転することになるのです。そして延宝

三年（一六七五）に光圀によって磯浜村（大洗町祝町）に寺領を寄進・再興され現在に続いています。



▲大洗町の願入寺

◇清龍権現

大根田では、願入寺が去つた後、国長阿弥陀院末寺の真言宗成就院という寺院がこの地に創建されました。清龍権現はその境内社として祀られていたようです。成就院が江戸時代後期の天保年間に廃寺になったあとも、「成就院の守り神」として地元の人々から崇敬をうけ、現在は下小瀬上国集落二五軒で祠守をしています。「ケガレ・災厄を払う神様」として、葬式を終えるときまづ清龍さまにお参りしてから野良仕事に出かけたそうです。毎年十一月五日のお祭りには当番の家が甘酒を作り参詣人に振舞いました。今年からは甘酒を廃止したものの、赤飯や煮しめを作るのは変わらず続いています。

昔は夕方近くに始まって、夜になつても燈籠をつけて行っていたそうですが、現在は午後二時頃から二時間ほどで終わりになります。日曜日に変えることなく日付を守って行われ

ています。地元有志によって結成された大根田遺跡保存会が平成十一年に行つた願入寺・成就院跡の史跡整備の際、銅鏡が二点出土しました。一点は直径一〇センチメートルほどで室町時代の作、もう一点は一五センチメートルほどで江戸時代中期以降の作だそうです。この銅鏡がどちらかの寺に関わるものかはわかっていません。偶然にも大洗町の大洗磯前神社の大鳥居横にも「清龍権現」が祀られています。（表記は「清良神社」「茨城県神社誌」によれば、小幡城主で非業の最期を遂げたとされる小幡宥円を祀るとされています。しかし、こちらもその名称と立地から、ケガレを払い清める意味があるようです。両社にかかわりはあるのでしょうか。

軍司兵衛さんに聞き取り調査に御協力いただきました。

（歴史民俗資料館）



▲清龍神社のお祭り